# 熊本県立湧心館高等学校（全日制）　平成２５年度学校評価表

## 1 学校教育目標

（1） 学ぶことの楽しさ、繋がることの喜びを体験させ、充実した学校生活を実現すること。
（2） 進路意識高め、勤労を重んずる態度養い、進路実現を行うこと。
（3） 自他の命を尊び、助け合いや公共心を育て、世のために働く態度を養うこと。

## 2 本年度の重点目標

（1） 豊かな心を育む教育の充実
（2） 確かな学力を育む教育の充実
（3） 進路目標達成を目指す教育の充実

## 3 自己評価総括表

| 評価項目 大項目 | 小項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校経営 | ３課程（全定通）と学校経営の整合性を図る | 他課程との情報交換が継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。 | 教務・進路・生徒指導部の情報の共有化と連携の強化を図る。 | ３課程の連絡会を定期的に実施し、協力体制を強化する。 | B | ３課程合同での職員研修や公開授業週間、小中学校訪問や体験入学等、各行事ごとに連携を図る機会が多くなった。今後、さらに連携を深め学校の活性化に繋げる。 |
| | 適応指導の充実 | 学年及び学校全体として具体的な取組が進められているか。 | 全学年の年間の転学・転籍・退学者数３０名以内。 | 運営委員会・職員会議の定期的開催と充実。各種委員会やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の効果的な活用と連携。 | B | 全学年の転学・転籍・退学者は目標達成が厳しい状況にあるが、運営委員会や職員会議の開催を通して職員間の情報の共有は改善されてきている。スクールソーシャルワーカーの有効活用も行われてきている。 |
| | 開かれた学校作り | 広報活動を効果的に実施しているか。 | 積極的な情報発信に努め、「地域に開かれた学校作りに努めている」９０％以上を目指す。 | 湧高便り（学校広報誌）年２回、湧水（学年広報誌）の毎月配布。体験入学や中学校説明会の充実。 | B | 学校や学年の広報誌の配布は例年どおりに行えた。体験入学の工夫や小・中学校への訪問も充実し、直接色々な意見を頂くことで、広報活動をより充実させる貴重な機会となった。 |
| | | 地域社会に貢献する態度が育っているか。 | 学校周辺及び地域の清掃活動を行う。 | 学校全体で計画的に取り組む。 | B | 学校周辺の清掃や地域の行事への参加等積極的に行った。 |
| 学力向上 | 教科指導力の向上 | 公開授業により授業技術の向上を図られているか。 | 公開授業週間の設置及び授業研究会（後期）を実施する。 | 他の科目などの授業参観を行い授業評価として担当者に伝える。 | A | 後期に公開授業週間を設定し、各教科の代表が研究授業及び合評会を行った。３課程合同での研究授業・合評会をはじめて実施し、有意義な内容とすることが出来た。<br>合同で行うことで協力体制が芽生えてきた。 |
| | 指導方法の工夫と改善の推進 | わかりやすい授業研究の推進がなされているか。 | 習熟度別学習、ＩＣＴを活用した授業実践を推進する。 | 生徒が興味・関心を持ち学習活動につながるようＩＣＴなどを利用した授業実践を推進する。 | B | プロジェクタの貸し出しが頻繁に行われており、視覚に訴える授業展開がみられた。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 豊かな心を育てる教育の推進 | 各教科で、「命を大切にする心を育む指導」を意識した授業展開がなされているか。 | 授業及び学校行事などの場面で、生徒が生き生きとした活動ができる。 | いろいろな場面で「自分自身を大切にする」言葉かけや働きかけを行う。 | B | 授業や集会で、将来を豊かにする心構えや生き方などの言葉かけを生徒に行った。今後も「命を大切にする心を育む」ということを学校教育の中心に据えた取組を実施していく。 |
| キャリア教育（進路指導） | キャリア教育の推進 | 望ましい勤労観・職業観の育成が図られているか。 | 職業講話、職場見学や企業人との接触などを通して職業人としての意識を形成する。インターンシップを通して望ましい勤労観を得る機会とする。 | ヤングハローワーク、雇用環境整備協会などを通して生徒たちに可能な機会を提供する。自分で連絡を取るなどの主体的な参加を促す。マナー指導などを通して職場で必要な事項を身につける。 | B | 上級学年に進むにつれて進路に対しての意識が高まっているが、最終学年にいたっても、受身の姿勢や学年末まで決めかねている生徒も見られる。また、仕事や社会に対する理解が乏しく、アルバイトなどを選択する生徒もいて、指導が浸透しない結果となっている。 |
| | 進路目標の達成 | 個に応じた進路指導が推進されているか。 | 進路希望調査などを通して進路目標を早期に設定する。進路情報の提供に努め、選択の幅を広げる | 進路希望の前段としての個人面談、三者面談をきちんと実施する。進路情報誌などを活用する。模試を実施し自分の実力、適性などを把握する。進路便りを毎月発行する。マナー講座、進路講話を実施し意識の向上に努める。 | B | 担任交代など引き継ぎがうまくいっているケースもあったが、前担任の考えをうまく生かすことができないケースも見られた。模試への参加なども少なく、客観的な資料を生かせなかった。進路便りは保護者への情報提供として重要である。また、生徒の意識向上のための職員研修も必要である。 |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | 生徒が健全で社会に対応できる生活をしているか。 | 時間厳守、挨拶、健全な整容の指導。 | 登校指導で挨拶運動と整容指導を行う。家庭訪問等による連携を図る。校内巡視を行う。 | B | 朝の登校指導が定着し、生徒の整容面が改善の傾向にある。以前より遅刻する生徒は減少し、生徒は挨拶をするようになった。登校指導・挨拶運動で生徒とのコミュニケーションが図れるようになってきた。<br>今後も全職員が共通認識の基、取り組んでいく。また、保護者との連携も重要である。 |
| | 理性的態度と道徳的実践力の育成 | 社会規範意識の高揚友愛・連帯の精神を養おうとしているか。 | クラスや委員会活動・部活動（加入率６０％）など集団生活の中での責任と人間形成の指導。 | 生徒会活動や委員会活動・部活動の活性化を図る。ホームルーム活動などでの道徳教育の推進や集団におけるルールやマナーの遵守等の指導徹底をする。 | B | 学校行事において生徒が能動的に活躍する場を設けた。育友会と連携した取組も行った。交通委員の発表や、体育大会・文化祭などでの活動が活発になってきた。生徒会執行部の活動は年々活発化しているが、委員会活動は一部の委員会を除いて、停滞している。今後定期的な委員会日を設ける。 |
| | 自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成 | 社会生活の根源は規則を守り融和協力であることを自覚しているか。 | いじめ件数の減少。非行事例の減少。 | 欠席・遅刻・早退等の防止に努める。いじめや差別などの防止対策の強化を図る。 | B | 朝の遅刻は少なくなってきたが悪天候時はまだ多い。<br>集会時にいじめ防止の宣言文を生徒会が発表したのはよかった。命の大切さと関連づけ、継続して取り組む。 |
| | 交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上 | 交通事故・違反が減少したか。自転車の二重ロック率が向上したか。 | 事故・違反件数を減少させる。二重ロック率８０％以上を目標。 | 自転車登録の工夫。交通安全教室の実施。交通委員会による施錠呼びかけと点検。 | A | 二重ロック率８０％以上はできるようになった。交通安全だけでなく規範意識の向上にも資するという目標にかなうものだった。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人権教育の推進 | 推進体制の確立 | 校内の人権課題が適切に検討されたか。 | 「人権教育の取り組みが充実」（９割） | 人権意識推進委員会・講演会の実施。 | B | 本年度は生徒に対する講演は実施していないが、職員に対する講演・研修を実施した。 |
| | 研修の充実 | 研修が効果的に実施されたか。 | 一人一回以上研修に参加し人権意識を高める。 | 校内・校外での研修会への参加。 | A | 可能な限り、多くの職員が参加した。今後校外での研修会への参加をさらに増やす。 |
| | 命を大切にする心を育む指導の充実 | 計画に沿って、年間を通して全ての教育活動で効果的な取組が行われているか。 | 全ての教育活動を通して「命を大切にする心を育てる」取組の充実を図る。 | 全ての教育活動を通して「命を大切にする心を育てる」ことに効果があると思われる内容をピックアップし、月毎に確認シートを作成し、実行する。 | A | 毎月、各教科毎に「命を大切にする心を育てる」指導に該当する項目が挙げられ、実施された。今後、生徒が他者への思いやり、自尊感情、自己有益性の高まりに基礎学力が重要であることに気づかせるような指導を行う。 |
| 教育課程 | カリキュラムガイダンスの充実 | 自己目標達成のためのカリキュラム編成<br>支援がなされているか。 | 事前指導を充実させる。 | ガイダンス（説明会）の実施及び家庭訪問・個別面談による相談。 | B | カリキュラムガイダンスの内容が理解しやすいように具体的に噛み砕いた説明会を実施した。また、担任と生徒の面談において個人個人に対応できた。 |
| | 単位制の特色を活かした教育課程の検討 | 多様な進路に対応する科目選択の検討がなされているか。 | 単位制の特色を生かした教育課程の研究。 | カリキュラム表により選択例を具体化し教育課程編成について検討する。 | C | １年生から新教育課程に完全移行したが、カリキュラム表（ブロック）の一部変更にとどまっている。今後、単位制を活かす教育課程の検討を積極的に行う。 |

**４ 学校関係者評価**

（１）学校の自己評価については、おおむね妥当である。
（２）学校評価アンケートの教師と生徒の回答の差が大きい項目について、結果を分析して改善に向けて取り組んでもらいたい。
（３）生徒は先生方が悩みや相談に親身になってほしいと思っている。これからもその期待に更に応えてもらいたい。
（４）学校行事への保護者の参加が増えるような工夫が必要ではないか。
（５）地域との交流をより充実させながら、地域・保護者・学校一体となった教育の充実を目指して欲しい。

**５ 総合評価**

（１）全体として前年度より自己評価が上がった項目が多かった。
（２）進路変更していく生徒が多い状態が続いているが、粘り強く個々に丁寧に対応してきた。
（３）整容指導の充実や二重ロックの徹底等、年間をとおして継続指導してきたことが定着してきている。
（４）適応指導に関して課題を洗い出し、次年度の改善に向けた準備を進めた。
（５）中学校訪問等充実させるなど、広報活動を充実させた。生徒募集にも少なからず良い影響が出ている。
（６）全体的には落ち着いた状況であり、職員の意識も前向きに向上し、学校全体としての連帯意識も根付きつつある。また、３課程の協力体制もできつつある。

**６ 次年度への課題・改善方策**

（１）学校評価アンケートの生徒の肯定的回答８０％以上を目指していく。
（２）公開授業を積極的に進め、教師の相互評価を通して教科指導力の向上を図る。
（３）連続して適応指導の指定を受けており、次年度は今年度の取組をさらに充実させる。
（４）基礎学力向上対策やキャリア教育の充実等、進路目標達成に向けた取組の充実
（５）単位制の特色を活かした教育課程の検討を進める
（６）ＨＰ等を充実させ、広報活動をさらに充実させていく。
（７）地域清掃活動等の実施や地域の行事への積極的参加等、地域貢献の取組を充実させる。